

令和7年度実施横浜市公立学校教員採用候補者選考試験

受験申込期間 令和7年4月9日(水)～5月12日(月) 午後5時まで

第一次試験日 令和7年7月6日(日) 第一次試験は「大阪会場」も設置します！
試験の詳細は別冊の受験案内をご覧ください

試験に関する説明会(事前申込制) 全国5会場 & オンライン会場

開催日時と会場の詳細はホームページをご覧ください



教員募集サイト「先生開化 YOKOHAMA」

教員採用試験情報の発信とあわせて、「横浜で先生になる魅力」をより多くの方にお届けします。
＜臨時的任用職員・非常勤講師等も募集中です。＞

先生開化
YOKOHAMA



魅力発信プラットフォーム「ヨコエデュ！」

“学校生活が楽しくなる先生の取組”や
“先生を夢見る高校生を応援するプログラム”など、
横浜の教育のことを知って、誰かに教えたいくなるようなストーリーをお届けします。

横浜市教育委員会公式 **note**
ヨコエデュ！



横浜移住サイト「だから横浜で暮らしたい」

住みやすい環境で、自分らしい生活ができる横浜のまちの魅力を紹介しています。
交通利便性がよく、働く学校が変わっても引っ越す必要はありません。

だから横浜で暮らしたい



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

お問合せ 横浜市教育委員会事務局 教職員人事課任用係

所在地：〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地10

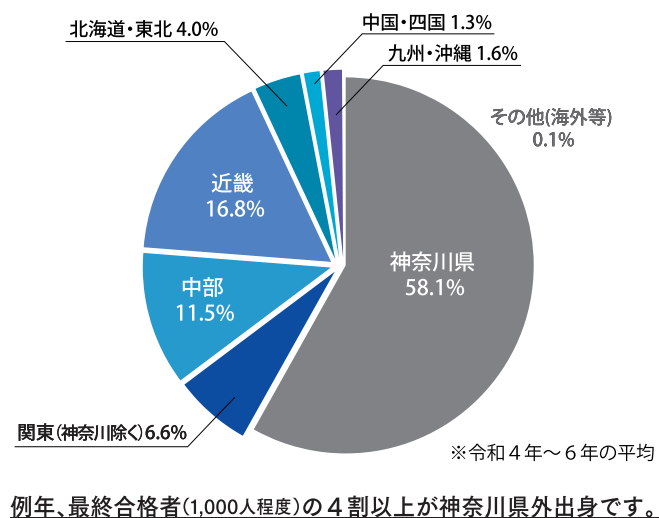
TEL：045-671-3246 FAX：045-681-1413 MAIL：ky-kyosyokujinji@city.yokohama.lg.jp

令和7年度実施…………… 横浜市公立学校教員募集

学
ぶ
な
ら
横
浜
、
教
え
る
な
ら
横
浜



全国から横浜へ(最終合格者居住地)



先生開化

YOKOHAMA

ヨコハマは、
開港以来、多様な文化や人を受け入れ、
個性に変えてきた歴史があります。

たくさんの仲間がヨコハマに集まり、
励まし合い、ともに成長をよこび、
自らも日々学び続けています。

ヨコハマなら、変化をいとわず、安心して挑戦できる。

先生開化

「あなたらしく、自分らしく、
思い描いている先生という人生を
ここ、ヨコハマで、ひらいてほしい。」
開化という言葉に、私たちの想いを込めました。

私たちは、
いつだって、子どもたちをまんやかに
明日をひらくために歩み続けます。



横浜の求める教師像

- 教育への使命感や情熱をもち、学び続ける教師
- 「チーム学校」の一員として、ともに教育を創造する教師
- 子どもによりそい、豊かな成長を支える教師

横浜の先生の“いま”を伝えるドキュメンタリームービー公開中！



- #1 ヨコハマのチーム力
- #2 先生の成長
- #3 変わる働き方
- #4 卒業

児童生徒支援

チーム学校

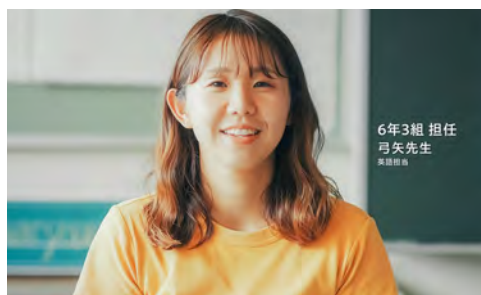
横浜の学校では、担任、学年主任、児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど、様々な役割を担った教職員が互いに連携し、**チームとして子どもたちの成長に寄り添っています。**



6年1組 担任
酒井先生
社会科担当 学年主任



6年2組 担任
望月先生
国語科担当



6年3組 担任
弓矢先生
英語科担当



6年4組 担任
海野先生
理科担当

児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭

学級担任をせず、児童生徒の支援や指導を専任する教諭。児童生徒の抱える諸課題への未然防止、早期発見、早期解決のため、校内の中心的な役割を担い、支援体制を整えて担任をサポートしています。

全校に、**児童支援専任教諭(小学校)・生徒指導専任教諭(中学校)**が配置されていることは、横浜の大きな強みです。



神大寺小学校 児童支援専任教諭

特別支援教育コーディネーター

各学校における特別支援教育の充実に向けて、中心的な役割を担う教諭。保護者からの相談窓口を務め、担任や保護者、特別支援学校、福祉・医療機関などの関係者と連携し、支援体制を整えています。



神大寺小学校 チーム6年・4人の先生

教科分担制の推進

～チームで子どもたちを育む～

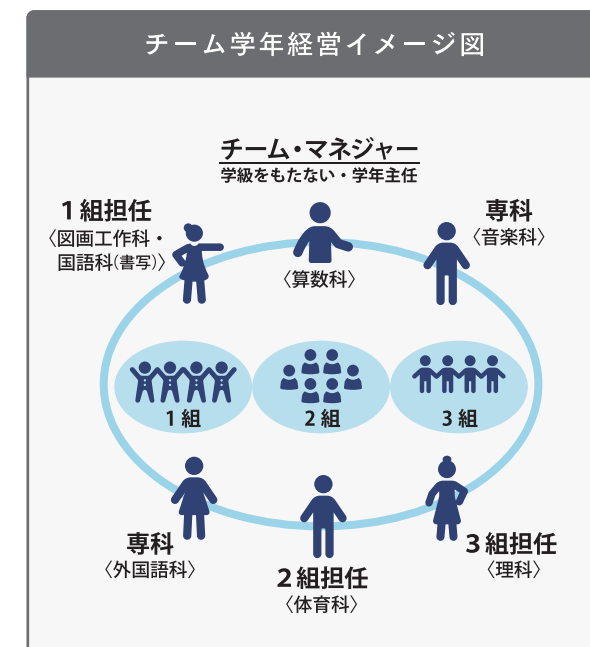
チーム学年経営

小学校高学年における一部教科分担「チーム学年経営」で、学年の教員が一部の教科を分担して指導することによって、学級を越えたすべての子どもとの日常的な関わりを生み出し、チームとして子どもたちを育てています。さらに、担当教科が絞られることで授業準備が効率化され、ゆとりを生み、授業の質の向上にもつながります。子どもたちも、小学校で一部教科分担制を経験することで、スムーズに中学校生活に入ることができます。

令和7年度から全小学校で実施します。

チーム学年経営×チーム担任制

チーム学年経営の特徴を生かし、授業以外の学級担任業務も幅広く複数教員で協働して対応する「チーム担任制」について、令和7年度から試行・研究していきます。



充実のサポートスタッフ

本来業務である授業準備や児童生徒の支援に専念し、心身が充実した状態で日々いきいきと児童生徒の前に立ち続けられるよう、教育委員会事務局と学校が一体となって働き方改革を推進しています。

職員室業務アシスタント

電話や来客などへの対応、配付物の印刷や仕分け、データ入力や授業準備の補助など、日々発生する様々な業務をサポートし、教員の事務的負担を軽減する外部人材を全校(高等学校を除く)に配置しています。



神大寺小学校 AET アイラ先生と授業

他にもたくさんの“チーム”スタッフ

多くの人材を配置することで教職員のサポート体制を強化しています。

- ・ICT支援員【全校派遣】
- ・AET(英語指導助手)【全校配置】
- ・IUI(国際理解教室外国人講師)【小・義務教育学校全校配置】
- ・理科支援員【小学校全校配置】
- ・学校司書【小中学校全校配置】
- ・部活動指導員【希望する全ての部活動に配置】
- ・副校長マネジメント支援員【一部の大規模校に配置】
- ・スクールカウンセラー【全校配置/小中一貫型配置】
- ・スクールソーシャルワーカー【全校派遣】
- ・校内ハートフル支援員【中学校全校配置】 など

教員同士の学び合い、育て合う風土

メンターチーム

横浜の学校では、校内で経験年数の少ない教員と少し先輩の同僚教員が集まり、「メンターチーム」をつくっています。教員同士が学び合い、互いに悩みを相談したり、課題の解決に向けて話し合ったりして、共に成長しています。メンターチームの活動内容は多岐にわたり、授業のことはもちろん、係活動の進め方、成績のつけ方、保護者や地域との関係づくりなど、気軽に相談したり助言し合ったりしています。



神大寺小学校メンターチーム

ドキュメンタリームービー#2にも登場している神大寺小学校のメンターチームの愛称は「ぶり会」。大きさによって呼び名が変わる出世魚でもある「ぶり」にあやかって、大きく成長して欲しいという願いが込められています。



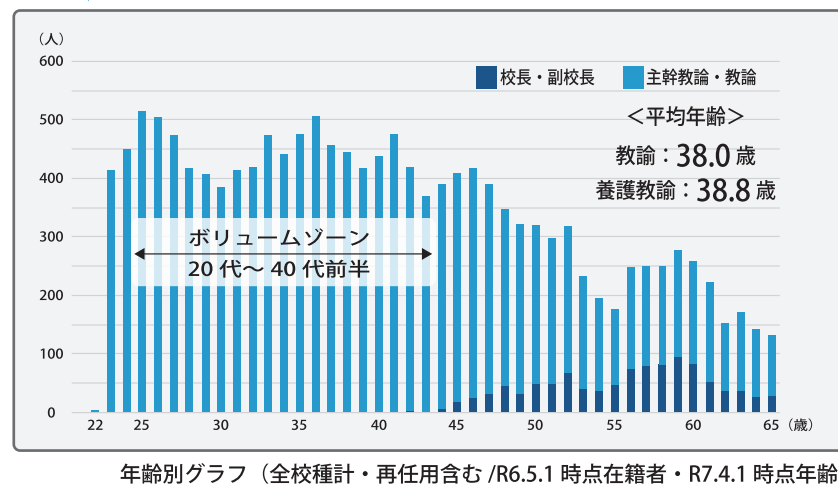
旭小学校メンターチーム

旭小学校のメンターチームは、月1回程度の開催で、毎回のテーマは、メンバーの知りたい、聞きたい、学びたいの声から決まっています。旭小学校のメンターチームの目的は「学びの場をつくる人、周りを巻き込める人、その力を育てたい。」というところにあります。

「右も左もわからず、誰に聞いたらいいかわからない。」そんな時期が特に経験の浅いうちは、きっとあると思います。それは教員も同じです。

「義務感や与えられるものとしての学びや研修ではなく、仲間との関係の中で自由に、『学ぶことの価値』や『新たな気づき』を得てほしい。」との思いから活動を続けています。(メンターチームが集まる時間は、カリキュラムや職員会議の時間等を工夫して勤務時間内に設定しています。)

若手の先生が多い横浜だからこそ築き上げられてきたチーム力があります



500超の学校・26万人の子どもたち・2万人の教職員
いずれも単一の教育委員会として日本最大規模

	小学校	中学校	義務教育 学校	特別支援 学校	高校	市全体
学校数 (分校含む)	336	144	3	13	9	505
児童 生徒数	256,206					
学級数	10,355					
教員数 (兼務含む)	19,478					
職員数	1,901					

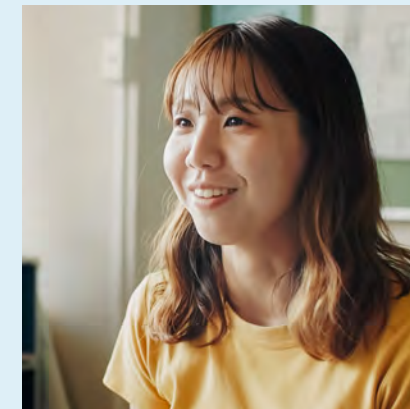
市立学校データ(R6.5時点)

Q 先生を目指したきっかけ、先生になって良かったこと

A もともと子どもが好きだったことや、高校の担任の先生からも教育学部を勧められたことをきっかけに先生になろうと思いました。大学の専門は保育でしたが、学んでいる中で、より言葉を伝えられる小学生と関わりたいと思いました。

先生になって、普段子どもたちと関わることが第一に楽しいですが、自分の思いを伝えてきたことが、子どもたちの行動から伝わっていると実感したときに嬉しくなります。

毎年4・5月は、学級経営で、自分の思いが子どもたちに伝わっているのかわからない状態であっても、6月頃から、子どもたち同士で声かけをし合いながら協力し合う姿が見られるようになってきて、嬉しくなります。

弓矢 真帆 三重県出身
神大寺小学校教諭

Q 横浜を受験した理由(きっかけ)、働いてよかったこと

A 「メンターチーム」の制度に惹かれました。実際、社会人になって、わからないことだらけで不安になることも多かったのですが、同じ年代の人たちとわからないことを考えたり、話したりできる空間が素敵だなと思いました。

メンターチームで過ごす中で、他愛のない話ができることも心強かったです。チームのみんなと悩みを共有したり、先輩からのアドバイスを聞いたりすることで、仕事上の不安を軽減することができたなと思います。

また、子どもたちはたくさんの知識をもっていて、授業を展開していくのが楽しいです。



▶ 受験者へのメッセージ

最初はどうも授業ができるのか、仕事をスムーズにこなせるのか不安だらけでした。実際に働き始めてからもなかなかうまくいかず、悩むときもありました。そんなときでも抱え込まずに他の先生に相談してアドバイスをもらうことで乗り越えてこれました。なんといっても、子どもたちと真に向き合って毎日過ごすことがすごく楽しくて、子どもたちの成長を一番近くで見られることに大きなやりがいを感じられる仕事だと思うことが多いです。小学校の先生という子どもと密に関わることができるこの仕事に魅力を感じてくれると嬉しいです。



未来の教育の実現に向けた横浜教育DX(デジタルトランスフォーメーション)

横浜教育イノベーション・アカデミア

教員、大学、企業の共創により、横浜の教育の質や教職員の魅力を高めることを目指して、約50の大学と教職員、現役の大学生や大学院生、企業関係者などがリアル・オンライン・メタバースなどの空間で集って議論や交流をしていくプラットフォームです。例えば、「AIは『わかる瞬間』をデザインすることができるのか」といったテーマについて、大学関係者や教員を目指す大学生・大学院生などを交えて、未来志向で議論をしていく予定です。

横浜教育データサイエンス・ラボ

若手から中堅の教職員、専門的な知見をもつ大学研究者、データの分析・加工の専門的な技術をもつ企業で形成される研究の場もできました。教員の課題感や求める効果を出発点とし、大学や企業の知見やノウハウを組み込んで研究をしています。児童生徒約26万人の教育データを分析し、教職員や子どもたちに有効な「教育データ」を提供していきます。

テーマ例 ●算数科・数学科の学力と意欲の関係

●子どものこころの変化をとらえ、安心な学びの環境をつくる「横浜モデル」の開発

ラボ×アカデミア

教員の経験・勘と教育ビッグデータを基に仮説を立て、アカデミアではその仮説に基づいて議論してラボに対して具体的な手立ての提案やデータ分析の提案をし、ラボはまたその助言を基にデータ解析や学校でのモニターを行います。ラボが教育を『科学』してアカデミアが『哲学』する形で学びをつくりあげていきます。



横浜教育イノベーション・アカデミアの様子

国際都市 YOKOHAMA 外国につながる子どもたちへの支援

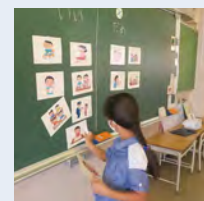
国際都市である横浜には、外国につながる子どもたちが数多く在籍しており、学校の中で世界を感じることができます。外国につながる子どもたちができるだけ早く学校になじむための支援のほか、国籍に関係なく、多様な価値観の中でともに学び合える環境を整え、多文化共生や他者を尊重する力を育んでいます。

日本語支援拠点施設

「ひまわり」「鶴見ひまわり」「都筑ひまわり」

来日間もない子どもたちに、集中的な日本語指導や学校生活に適応するための指導のほか、子どもと保護者向けの母語によるガイダンスも行います。

その他にも、外国につながる子どもたちを支援する



取組として、国際教室や日本語教室、母語通訳ボランティア制度などがあり、支援する教員を対象に日本語指導者養成講座なども、用意されています。

教員の海外研修派遣

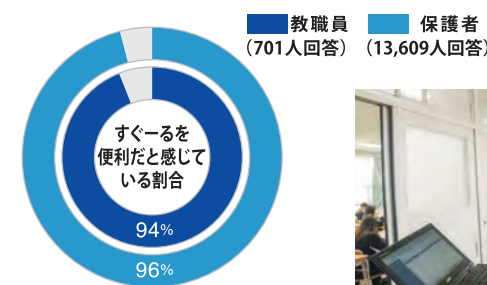
海外における教育実践や生活体験を通して、異文化への理解を深めるとともに、コミュニケーション能力、インクルーシブ教育等、一人ひとりに最適な学びを実現する力を高めます。



派遣先(例)ニュージーランド

家庭と学校の連絡システム「すぐーる」

「すぐーる」は、家庭と学校の連絡をスマートフォン等で行うことができるシステムで、令和6年4月から全校に導入しました。朝の欠席・遅刻連絡やお便り等の電子化により、印刷時間の削減、配付や回収の手間の解消につながっています。



「すぐーる」利用者アンケート結果
(R6.6月実施：試験運用校対象)



学習ダッシュボード「横浜St☆dy Navi」

「横浜St☆dy Navi」(よこはまスタディナビ)は、令和6年6月から始動した学習ダッシュボードで、児童生徒の健康観察や授業アンケート、横浜市学力・学習状況調査など、様々な情報を一元的に確認することができます。教員の経験や勘に加えて客観的なデータを活用することで、アセスメントをしっかりと行い、一人ひとりに応じた個別最適な指導の実現の充実につなげます。



地域や社会とともに未来を生きていく力を育む

横浜市では、子ども一人ひとりが自分に自信をもち、社会や集団の中での役割を意識し、夢や目標をもって社会に貢献していく人を育成する「自分づくり(キャリア)教育」を推進しています。

はまっ子未来カンパニープロジェクト

地域企業等と連携し、子どもが主体的に「地域や社会の課題解決」に取り組むことで、今も将来も社会に貢献していく「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を平成28年度から実施しています。



取組名：浜なしになれなかった梨のお話

よこはま子ども国際平和プログラム

横浜の小・中学校では、1986年からこれまでに「よこはま子ども国際平和プログラム」を実施しています。

毎年約4万人の児童生徒が参加する「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」や、優れたスピーチをした4名をよこはま子どもピースメッセンジャーとして、ニューヨークの国連本部等に派遣することを通して、国際社会の中で自ら考え行動できる数多くのグローバル人材を育成してきました。「どうしても今、セカイへ伝えたい」。真剣に取り組む子どもたちの声や表情を是非ご覧ください。



横浜の教育が目指す人づくり

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人
わたしの・あなたの・みんなの成長

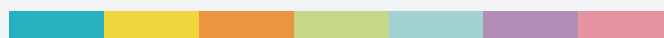
〈第4期横浜市教育振興基本計画3つの視点〉

視点1 一人ひとりを大切に

視点2 みんなの計画・みんなで実現

視点3 EBP^Mの推進

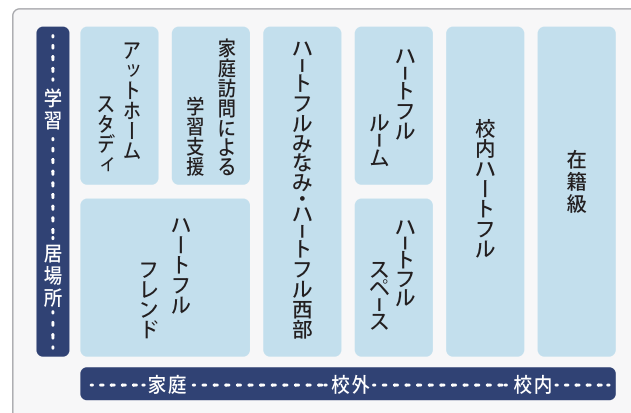
※Evidence Based Policy Making
エビデンスに基づく政策形成



不登校児童生徒支援

不登校児童生徒については、担任だけでなく児童支援・生徒指導専任教諭等が中心となり、チーム学校で対応します。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職等とも連携し、一人ひとりに合った安心できる居場所と個別最適な学びを提供できるよう、支援策を検討します。

横浜教育支援センターでは、**学校外での学びや居場所の提供、オンラインの活用など、様々な取組で不登校児童生徒や保護者を支えています。**



不登校児童生徒の状態に応じた支援イメージ

横浜どこでもスタディ

オンラインを活用した学習支援で、不登校や感染症不安など、様々な事情で学校に登校できない児童生徒がオンラインで授業に参加できるように、子ども自身が必要に応じて学ぶ方法や場所を選べる取組を実施しています。

校内ハートフル

不登校傾向など、在籍級以外の別室であれば登校できる生徒を対象に、全ての中学校の特別支援教室等に支援員を配置し、生徒一人ひとりの状況に合った支援を行っています。支援員が常駐することで、学校の中の「安心して過ごせ、自分のペースで学べる居場所」としての役割を果たしています。



校内ハートフル

いじめ未然防止の取組

横浜市では、いじめの未然防止の取組には、専任教諭を中心に、担任一人が抱え込むことなく、チームで取り組んでいます。また、「横浜子ども会議」を毎年実施し、子どもが主体となり、いじめについての話し合いや、お互いを知るための取組を行っています。各学級、各学校、各中学校ブロック、そして各区で保護者や地域の方の協力も得ながら、市全体で子どもの健全育成を図り、**いじめを「しない」、「させない」、「見逃さない」社会の実現を目指しています。**



いじめをしない自分であるために～横浜の子どもたちの声～



特別支援教育

横浜には13校、5領域(知的・肢体不自由・病弱・視覚・聴覚)の特別支援学校があります。さらに、すべての小・中・義務教育学校に、個別支援学級(特別支援学級)、特別支援教室を設置し、通級指導教室と合わせて多様な学びの場を提供することで、子ども一人ひとりの障害の状況や教育的ニーズに応じた教育活動を行っています。

横浜型センター的機能

特別支援学校や通級指導教室の教員、地域療育センターのスタッフ等が、それぞれの専門性を活かして、各学校の教員の支援や特別支援教育等に関する相談・情報提供、研修やサポート等も行っています。



Q 先生を目指したきっかけ、先生になって良かったこと

A 小学生の時の担任の先生がとても親しみやすく、学校が楽しいと思ったことがきっかけです。そして、中学生になり、社会と技術の授業が特に楽しかったこと、その当時の教科担任から良い影響を受けたことで、中学校教諭を目指そうと思いました。

教え子が「学校の先生を目指している」という話を聞いたこと、卒業してしばらく経った教え子との会話で、「先生の授業の〇〇を今でも覚えています」と言ってもらえたときは、先生になって良かったと感じます。



長瀨 亮(技術) 長崎県出身
中川中学校教諭



Q 横浜を受験した理由(きっかけ)、働いてよかったこと

A 地元と採用試験の日程が異なったことや、出身の大学から毎年多くの卒業生が横浜で採用になっていたこと、長崎に比べ技術科の募集人数がまだ多かったこと(当時は長崎1名、横浜5名)、家族が神奈川にいたことなどありますが、海があり、中華街があり、坂がありと、規模は異なりますがどこことなく長崎に似たところがあったのもきっかけでした。

働いてよかったことは、福利厚生がとても良いこと(様々な場面で割引等の制度がある、子どもが生まれて多くの休暇制度や補助があること)や県外出身者が多く、同じような立場の先生がいて相談できること、GIGA端末の先行導入など最先端な環境で授業が展開できることなどがあげられます。研修で同期や同教科の教諭に会え、情報交換ができることなどが働いてみて感じる良かったところです。



▶ 受験者へのメッセージ

若手からベテランまで幅広い年齢層で、様々な先生から働きながら学ぶことができます。県外出身者でも、研修等で同期とのつながりもあるので、他校の先生とのつながりも広がっていきます。ICT機器を使って幅広い授業が展開できるので、ぜひ横浜で一緒に働きましょう。





花澤 爽太 横浜市出身
中村特別支援学校教諭

Q 先生を目指したきっかけ、先生になって良かったこと

A 一番のきっかけは、進路で迷っているときに高校の恩師に背中を押されたことです。元々人に何か教えるということ自体は好きでしたが、人前に立つことに少し苦手意識があり、教員という職業を自然と選択肢から外していました。本当にやりたいことがわからない状況で恩師に進路相談する機会があり、そのときに言われた「教員にむいていると思うけどな。」という何気ない一言にはっとさせられ、「挑戦してみるのは自由だし、やってみよう！」と決意ができました。

どんなに授業準備が大変でも、うまくいくまでに時間がかかっても、子どもが成長したときに大きな喜びや感動を感じ、それを職場の仲間とも共有できることが良かったことです。特別支援学校では、なかなか成長をすぐに感じられないことも多いのですが、だからこそ成長が見られたときの嬉しさも倍増します。過去に、知的障害がある児童に長縄を教えた際、元々「長縄＝跳ぶ」ということも理解していなかった児童が、最終的に一人で跳べるようになったときには、クラスの教員みんなで大喜びしました。そのとき感じた幸せな気持ちは、今でも忘れられません。

Q 横浜を受験した理由(きっかけ)、働いてよかったこと

A 臨時的任用職員として横浜市の教員をやっていたときに、尊敬できる先生方がたくさんいたからです。採用された後も、授業の組み立て方などを勉強させてもらいながら、自分なりに授業づくりを工夫して取り組んでできました。これからも周りの先生方に学びつつ、私自身が学んだことを同じように後輩に伝えていきたいと思っています。

正直に答えると、実家が横浜なので何かあったときの安心感があるというところや、地元の友達にも会いやすいというところですね。仕事面では、遠足や宿泊など校外での活動がある場合、自分が子どもの頃に学校行事で行ったことのあるところを使用することがあるので、見通しが立ちやすかったり、懐かしさを感じながら引率できたりすることができるところです。また、横浜の新たな一面を知れることもあるので、そこに楽しさを感じることもあります。



▶ 受験者へのメッセージ

横浜の学校には、チームで協力して子どもたちを成長させようという雰囲気があります。楽しく協力しあいながら、子どもたちの成長と一緒に喜べる仲間たちと働いてみませんか。子どもたちのより良い学習環境のために、新しい風を吹かせてくれる方が来てくれること、楽しみにしています！



Q 養護教諭を目指したきっかけ、養護教諭になって良かったこと

A 大学生の頃、ボランティアや親戚関係で様々な子どもたちと接する機会があり、子どもなりに悩みや不安を抱えていることを感じて、その成長をサポートしたいと思ったのがきっかけです。中でも心のこと、体のことの両方から関われる養護教諭に魅力を感じました。以前卒業生から「先生と保健室でいろんな話をした何気ない時間が自分にとってすごく大事な時間でした。そのおかげで今はとても元気に過ごしています！」とお手紙をもらったことがあります。その瞬間は大きな変化がなくても、諦めずに関わり続けたことで背中を押すことができたのだと喜びを感じ、この職についてよかった！と嬉しくなりました。



戸田 真由美 横浜市出身
豊田中学校養護教諭

Q 養護教諭として一番大切にしていること

A 子どもの力を信じて待つことです。これを言ったから、これをしたからと、子どもが劇的に変わる魔法などないので、目の前の子に対して今自分ができることは何か、学校としてできることは何かを常に考えるようにしています。日々の積み重ねが大切だと思っているので、子どもたちが少し羽を休めながらも一歩ずつ前に進めるような支援をしていきたいです。



Q 横浜を受験した理由(きっかけ)、働いてよかったこと

A 自分が生まれ育ったところで働きたいと思ったからです。横浜にはみなとみらいをはじめ、魅力的な場所もたくさんあるため、横浜以外を受験することはあまり考えられませんでした。研修の種類が豊富なことや、研究会などを通して他校の養護教諭と交流を深めることで、自分の知識の引き出しを増やしたりアップデートしたりと、学び続ける環境が整っていることです。また、地元だったため、小学生時代の担任の先生と一緒に働く機会があり、思わぬ再会ができたことも嬉しかったです。



▶ 受験者へのメッセージ

子どもたちの成長を肌で感じるができる魅力的な仕事だと思っています。養護教諭は学校に一人又は二人ですが、横浜には困ったときに力になってくれる素敵な先輩がたくさんいます。また、研修や研究会など学び続ける環境もたくさんあります。ぜひ横浜で一緒に働きませんか。



給与と昇給モデル

初任給モデル

給与月額	小学校・中学校・高等学校	約308,000円 (年収約4,775,000円)
	特別支援学校	約319,000円 (年収約4,958,000円)

大学新卒・22歳のケース、教職調整額等含む

昇給モデル

10年後(32歳)	約360,000円 (年収約6,312,000円)
20年後(42歳)	約445,000円 (年収約7,549,000円)

現在の給与制度をもとに、大学新卒で標準的な昇給をした場合

主な手当

通勤手当	55,000円/月(限度額)
住居手当※	30歳未満 28,000円/月 40歳未満 19,600円/月
期末・勤勉手当	4.60月分/年(令和6年度実績)

※自ら居住するために借り受けた住居の家賃を支払っている職員に支給

●表記はいずれも令和7年3月現在の条例等によります。
条例改正等が行われた場合は、その定めによります。

転職の場合の給与モデルや休暇制度など、もっと知りたい方はホームページをご覧ください。
「教員の給与と休暇」



仕事と子育ての両立支援制度の充実

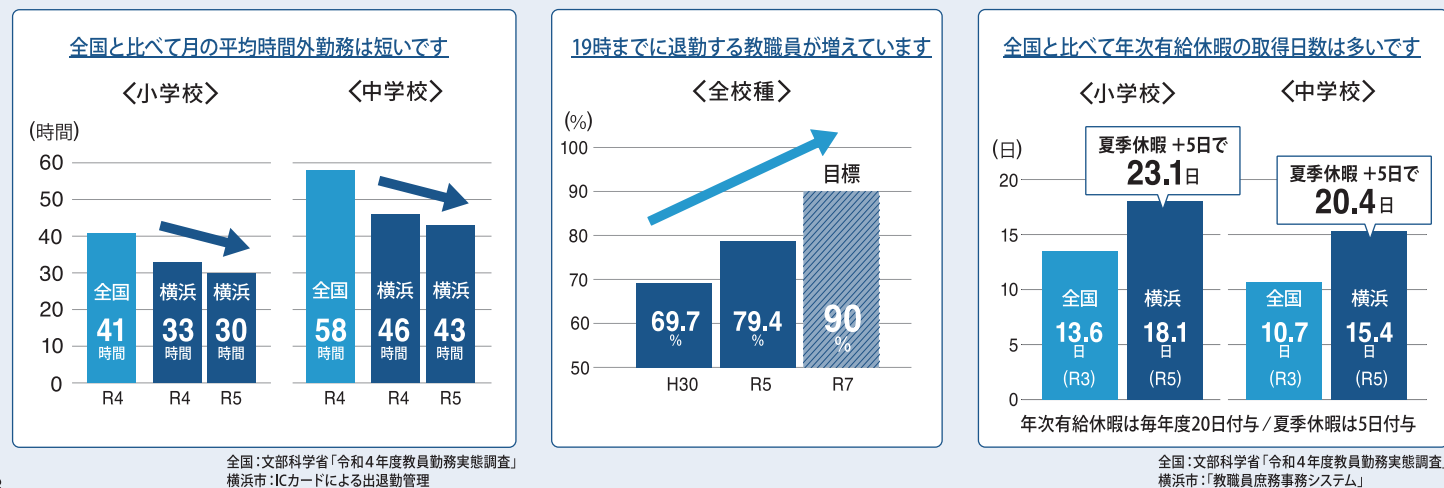
働きながら子育てをしていくための制度がますます充実

- ・横浜市立学校フレックスタイム制度や育児短時間勤務、部分休業で勤務時間の調整が可能
- ・妊娠期から、多様な休暇制度が充実
- ・育児休業は最長3年まで取得可能

ドキュメンタリームービー#3に登場する長濱先生は、夫妻で本市中学校に務めています。育児短時間勤務制度等を活用しながら、子育てと仕事の両立を図っています。



数字でみる働き方改革



部活動改革

部活動指導員の積極的な登用

教員の心的負担・時間外勤務の減少、生徒のスキル・モチベーションの向上を目的に、教員に代わって単独で指導・引率が可能な外部人材です。**希望する全ての部活動に部活動指導員(令和6年度は約1,000人)**を配置しています。

- 育児や介護等の事情で指導が困難な教員、また、自らの競技経験が浅いなどの理由から指導に不安がある教員については、部活動指導員が顧問を担うことを推奨しています。

充実した初任者育成

採用前から始まるサポート

採用前に、同期の採用予定者と先輩教員を交えた懇談会を実施しています。同じ出身地、校種・教科等でグループになり、不安や悩みを共有したり、先輩教員に相談したりすることができます。(令和6年度は約220人参加)

1月の懇談会を皮切りに、4月の配属に向けては、オンライン研修や集合研修、配属校研修など、**不安は少しでも小さく、期待はできる限り大きくしていくための充実のプログラム**が用意されています。

「学びたい!」をいつでも、いつまでもサポート

ハマ・アップ(授業改善支援センター)

授業力・教師力を向上させるための施設で、市内4か所(方面別学校教育事務所内)に設置。経験豊かな授業改善支援員(元校長・元副校長)が常駐し、授業や学級づくりなどの様々な相談に応じています。授業づくり講座も多数開催されています。

横浜版部活動ガイドライン

生徒にも教員にも持続可能な部活動を実現するため、1日の活動時間を「平日2時間程度、休日3時間程度」休養日を「平日1日以上、土日1日以上」とするガイドラインを定めています。

ガイドラインを遵守した活動となるよう、大学・企業・団体等による部活動支援、合同部活動の推進、休日部活動の地域移行に関する実践研究など、様々な取組を進めています。



初任2年目・3年目研修

初任1年目だけでなく、**2年目・3年目もサポート**が続くのが横浜型の初任者育成です。校内授業研究会や、必修の集合研修のほか、それぞれ見えてきた自身の課題を解決するための研修を、自ら計画を立てて受講できます。



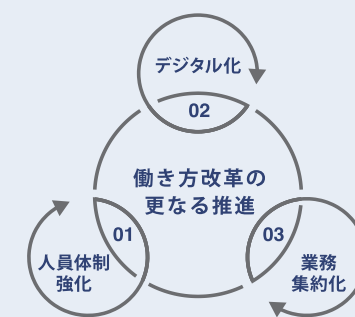
教員の休暇取得の推進

学校閉庁期間

横浜市では、会議も研修も電話対応もない「学校閉庁期間」を他都市よりも多く設定し、教員の休暇取得を推進しています。

- ・6月2日(横浜開港記念日)
- ・8月3日～8月16日
- ・12月27日～1月5日(年末年始を含む)

春季休業期間の延長(4月7日始業日)



授業づくり講座
「模擬じゃない! 学級会体験講座」